

教員名	神田 由築 (KANDA Yutsuki)
所属	文教育学部人文科学科比較歴史学講座
学位	博士 (文学) (1998、東京大学大学院人文社会系研究科)
職名	助教授
URL / E-mail	

◆研究キーワード

芸能 / 興行 / 文化 / 近世 / 都市

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・「役者村」塚田孝編『都市の周縁に生きる』（吉川弘文館）
- ・「大坂の芸能と都市民衆」『都市に対する歴史的アプローチと社会的結合』（大阪市立大学都市文化研究センター）
- ・「歌舞伎「勸進帳」の背景」
（『＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成』平成 17 年度活動報告書海外研修事業編）
- ・「近世浄瑠璃における神話と物語」
（『＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成』平成 18 年度活動報告書海外研修事業編）
- ・「江戸の歌舞伎文化」（『＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成』平成 18 年度活動報告書シンポジウム編）

◆研究内容

2006 年度の活動は大きく三つに分けられる。第一に、地方における芸能活動の展開について考察し、その成果を「役者村」（『都市の周縁に生きる』）にまとめた。「役者村」は西日本における芸能民の集住地域として知られていたが、その形態についてはいまだ不明な点があった。そこで豊後国高田算所村の史料をもとに、彼らの地縁的・血縁的結合のありかたを明らかにし、また西日本では大坂を頂点とする文化的ヒエラルヒーの様相を描き出した。第二に、大坂における浄瑠璃文化を素材に、遊芸文化の「素人」衆への浸透を検討した（「大坂の芸能と都市民衆」）。また第三に、これまでの研究活動をもとに、海外の大学や一般市民向けの講座などで講義（講演）を行い、その成果の普及に勤めた。なかでも韓国・淑明女子大学とイギリス・ロンドン大学で行った講義は、これまでの成果を披露するだけでなく、現在、試論的に取り組みつつある歌舞伎・浄瑠璃文化の戯曲構造の分析への足がかりとなるものであり、次年度への活動につながる手がかりが得られ貴重な体験となった。

◆教育内容

学部では以下の 6 つの授業を担当した。「日本史入門講読」では、近世に関する史料・文献を素材として（具体的には三田村鳶魚の著作など）史料の解読方法や考察の進め方など、学んでもらった。「日本近世史演習」では、『群馬県史』をテキストに受講者全員の発表を通じて、日本近世史の研究に必要な史料読解力等を身に付けてもらった。「古文書学」では、近世以前の古文書をテキストとして、その解読方法や構造などについて学んでもらった。「日本近世近代政治史」では、敵討ちをテーマに取り上げ、その実像を明らかにしながら、やがてそれが実像を離れて文芸作品や芸能作品に脚色されてゆく過程を紹介した。また他教員と分担して、史跡・遺物見学のフィールドワークを行う「歩いて学ぶ比較歴史」、古今東西のリスクの問題を紹介する「比較社会史」を担当した。大学院では、院生が研究成果を発表する「日本社会史演習」「日本社会史特論」と、歌舞伎・文楽などの知識を養うための科目「伝統芸能文化論特論」「伝統芸能文化研究」を担当した。

◆共同研究例

平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究C）「文字文化」は庶民の生活をどのように変えてきたか」（研究代表者 宮内貴久）に研究分担者として参加した。

◆共同研究可能テーマ

- ・近世文学に社会的背景をみるなど文学との共同研究
- ・祭礼における社会のありかたなど民俗学との共同研究
- ・芸能をテーマにした音楽学・服飾史などとの共同研究

◆将来の研究計画・研究の展望

素人浄瑠璃などのような遊芸文化を日本近世の都市文化の一環ととらえ、その実態を明らかにするとともに、遊芸文化の展開を通して見えてくる都市社会の特質を描き出したい。あわせて、2006年度に試論的に取り組んだ歌舞伎・浄瑠璃の戯曲構造の分析について、当時の社会的・文化的環境を明らかにする方法のひとつとして、さらに進めることができると考えている。

◆受験生等へのメッセージ

いろいろな所へ足を運び、いろいろなものを見て、読んで、自分の頭で考えること。現地で実物を見ることは、時間や空間の制約を飛び越えることを可能にします。時代や空間の境界を超えた人間への共感が、さらに歴史を面白くさせるはずです。